

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403160		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あさがお 西ユニット		
所在地	〒974-8261 福島県いわき市植田町本町1丁目11-4		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成29年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの「できること」「やりたいこと」に着目し、個性を生かす支援に努めている。</li> <li>「できること」の継続のために、誘導・見守りに時間をかけ、自立支援を行っている。</li> <li>家事活動(調理の下ごしらえ、洗濯、裁縫など)や趣味活動(塗り絵、切り絵、貼り絵など)、体操や音楽療法(カラオケ利用)の充実で、精神と身体の健康が保たれている。</li> <li>「健康は食事から」を合言葉に、食材は旬にこだわり季節感のある『美味しい家庭食』を提供している。冷凍食品や加工食品は使わず、食材選びからすべて職員が行っている。</li> <li>職員間のチームワークが良く、アットホームな雰囲気作りができています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングや研修など機会ある度に理念に基づいた支援ができていないか、職員全員が理念を共有し同じ気持ちで働く事ができているか確認し、実践するように努めている。年度末には理念を見直し、時代に合った支援を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、集会や行事に参加し、ホームの理解をしていただけるように努めている。今年度、災害非常時に備え、ご協力いただける地域の方の名簿を作成することができた。また地区の中学校・高校の福祉体験やボランティアも積極的に受け入れしている。介護相談員・傾聴ボランティアの来訪も継続されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時受け付けており、また「子ども避難の家」に登録している。町内会に高齢者が多い為、ご利用者の散歩を兼ねて近所を歩き、様子を見たりお声をかけるなどしている。ボランティアサークルの集会時に場所を提供したり、近くの公民館の行事の際には駐車場の提供もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームの取り組みや活動内容を報告し、会議メンバーからは毎回率直な意見を頂いている。それを日々のサービスの向上につなげられるように努めている。会議録はユニット掲示板に掲示し、家族会でも毎年報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは市役所や支所に出向いた際や、電話にて連携を取り、協力関係を築いていけるように努めている。役所主催の集会や研修にはできる限り参加するよう心掛けている。(多職種研修や地区地域密着型施設研修会に参加)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を行い、全職員正しく理解している。玄関の施錠については家族会で話し合い、「目の前が交通量が多い立地上、施錠をして欲しい」とのご家族全員の意見から施錠継続している。ただし、職員の対応が可能な限り、施錠しない時間を作るようにしている。施設内は自由な移動ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年いわき市の権利擁護・成年後見センター主催の専門研修会に参加している。その後内部研修を行い、職員全員で学び、日々の対応について職員で常に話し合い、処遇に生かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し勉強する機会を持っている。その後、内部研修で復命周知をして、職員全員で学べるように努めている。グループホーム協議会や法人内でも情報交換を行い、勉強の機会を持つように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛けて丁寧に説明している。契約時のみの説明では理解しがたいこともあるので、予め契約書を読んでいただき、契約時に再度説明させていただくなど、納得して頂いたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が意見や苦情を職員や外部へ表せるように、意見箱や苦情電話番号掲示など対応している。また、面会や担当者会議の際には施設や職員への意見や要望を聞くように心掛けている。意見・要望があった際には速やかに対応するように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も兼務で介護に携わり、日頃から一緒に業務に就きながら、他の職員と積極的にコミュニケーションを図り 相談しやすい環境を作るよう心掛けている。定期的に1対1で話す機会を設けている。また法人本部の理事長の来訪もあり、職員と話す機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望や意見を聞き、得意なところや個性を生かして、常に働きやすい環境を作れるようにと考え、努めている。ここ数年、定年と出産以外の退職者はいない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員の希望や経験に応じて出席してもらっている。その内容を内部研修で復命報告し周知することで、技術・意識の向上に努めている。資格取得制度を設け、1資格10万円までの補助をし、働きながら資格取得ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や研修には毎回出席し、情報交換やアドバイスによりサービスの質の向上につながっている。地区地域密着型施設交流会や市の多職種研修会に参加して勉強に努め、地域の他施設や医療機関との交流も大事にしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や意見を率直に話して頂ける利用者については十分傾聴している。要望や思いを伝えられない場合はそれを察し、話しやすい環境を作り、生活行動を観察して安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入にあたり家族の要望・不安面などを伺う面談を行っている。その後それに対しての経過や、生活のご様子などを報告し、信頼関係づくりに努めている。預かり金の残高報告や服薬の変更もその都度お知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の実情や要望を汲み取り、その時点で必要とされる支援を職員全員で見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、衣食住を共にし お互い助け合い、また教え合い、精神的な面でも支え合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やあさがお通信などにより、出来事や生活の様子などをお伝えしている。また、認知症状などの現状も伝え、それへの対応策や、認知症とはどういう病気かも合わせて伝え、お互いに勉強しながら支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人が面会に来やすい雰囲気・環境づくりに努め、交流が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士、テーブルを囲んでお茶をしたり活動に参加したりして、お互いをいたわり合いながら関わりを持ち、楽しく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人、家族から相談があればいつでも対応している。契約終了後、定期的に野菜などを届けて下さる家族さんもいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、思いや希望を察するにするとともに 自分史を作成し、生活歴や趣味を知る事で、どのような暮らしをしたいかを把握している。また、ご家族にも聞くなど協力を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	希望、意向を出来る限り取り入れている。また、家族や入居前のサービス事業所等より情報を得て 入所以前の生活歴を把握し、その人らしい暮らしが送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活の様子を日誌に記録し、職員全員で情報を共有し現状を把握している。その中から問題がある事柄については速やかに話し合いを持ち解決に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはケアカンファレンスを実施、利用者本人・ご家族の要望を聞き、それを踏まえ各職員の意見やアイデアも取り入れ計画に反映するよう努めている。各担当が計画に添ったサービス提供状況を振り返り、まとめている。状態に変化があった際にはその都度計画を見直し変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・変化・話された事を毎日記録し、職員は情報を共有している。記録を元に変化や新たなニーズが発生した時には臨機応変に計画を見直している。記録を基にデータ化し、徘徊や不穩に備えて事故を予防できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応できない時には他の機関を利用している。たとえば協力病院以外の受診を希望の場合や、家族との外出・外泊などには介護タクシーを利用できるよう調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員・傾聴ボランティアが来訪された際は楽しい時間を過ごされている。学生ボランティア・実習の受け入れも積極的に行い交流を高め、外に出る努力もしている。向かいにできたこどもセンターも散歩に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診が週2回あり24時間体制で受診できるよう整えている。また、協力病院以外にも本人やご家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ない為、協力病院と連携を密に図っている。体調急変時には医師に上申し、指示を仰いで対応している。協力病院は24時間体制で受け入れてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームからは本人に関する情報を提供し、病院からは治療や状態について随時報告をもらい、早期退院に向けて準備をしている。入院期間は毎日面会に行き声掛けや整容を行い、洗濯物や必要物品の補充なども家族に代わって行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせ早期の段階から家族・主治医・協力病院と随時話し合いを持ち対応方針を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状態の急変時・行方不明時・事故発生時に備えマニュアルを作成し全職員が対応できるよう周知徹底している。外部研修に参加し救急救命法を学び知識と技術の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害の対策を考え、月1回の訓練を行っている。また、年に一度消防署員立ち合いの訓練を行い指導を頂いている。今年はその訓練に町内会の方も参加され、地域の緊急時連絡網も作成した。災害時の非常食・飲料水の準備をし断水に備えての水の確保も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに、尊敬の念を持って言葉掛けや対応をしている。内部研修で「プライバシー保護の取り組みに関する研修」を行い、職員全員で学んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出できる利用者にはそれが叶えられる様できる限り対応し、表出できない利用者に対しては、選択できる場面を作り自己決定して頂けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、その日の体調に配慮しながら生活できるよう支援している。支援が必要な方は、その時の状況に合わせて、適切な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重して、できる範囲で自分自身で衣類を選べるようにさりげなく助言をして支援している。清潔感があり、きちんとした身だしなみの継続を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者に嗜好を伺い、季節の食材を使用し食事からも季節が感じられるような献立を作成している。調理の下ごしらえなどの作業を担って頂き、自分たちで行ったことで食事への楽しみを感じられるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康面に配慮した食事量を定め、主治医からの制限やアレルギーの有無があれば代替えを提供している。個々の嚥下機能に応じてとろみやきざみ、ミキサー食を提供している。お体の状態に合わせて摂取しやすい食器を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをすることで日課になっている。自歯が残っている利用者で磨き足りない方には声掛けしながらしっかりと磨いて頂き、自歯の残存に努めている。義歯は預かり洗浄剤消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄間隔をつかみできるだけ失禁のない対応をしている。在宅時は紙パンツを使っていた方も、入居後は布パンツ+パットやナプキンで過ごせるようになってきている。認知症状の進行により失禁が多くなっても、トイレでの排泄能力の維持の為、トイレ誘導は継続している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事に排便を促す野菜や乳製品を取り入れたり、体操や歩く機会を作り便通効果を最大限に引き出せる工夫をしている。それに加え排泄チェックを行い、便秘の方には主治医からの薬でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を使って間隔をチェックして週2～3回実施している。入浴前には、バイタル測定を行い健康状態を確認し入浴を実施している。また、菖蒲・バラ・ゆずなどの季節に応じた入浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やお茶の時間にはリビングに誘導、なるべく一緒にいただいている。それ以外は自由なのだが、皆さんリビングで談笑しながら手作業をすることを好まれ、賑やかに過ごしている。昼食後は休息を取る方もいて、午後の活動に元気に参加いただけるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧表を作り薬名・効能・用法・用量を間違いのないよう確認ができるようにしている。服薬の変更や追加があった際は職員間報告を密にし誤薬のないように努めている。ヒューマンエラーを防ぐように、服用までに何度も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居後に作成した自分史を利用して、趣味や好きな事を把握。能力に応じて仕事や作業を用意し毎日の活動に繋げている。役割を持つことで喜びや達成感を得られるよう支援している。また日頃手作業で完成した作品を市の展覧会に出すことで、共通の目標ができ、張り合いになっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ職員と散歩や買い物に出かけたり、季節ごとにドライブに出かけている。家族と定期的に外食や買い物に出かけたり、外泊する方もいる。地域のお祭りに出かける際は、近くの高校のボランティア部に協力依頼している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じお金を所持したり、希望に応じて買い物に行き、お金が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった場合は、ご希望通り電話を掛けたり、手紙を出すなど対応している。年賀状も毎年出すお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候や時間に合わせ室内の温度・照明の調整をしている。常に清潔を心がけ、特に臭いには気を配り トイレは日に2回掃除を行っている。また、リビングや玄関には季節ごとの花を飾るように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにいながらもソファや畳に移動したり、テーブル席を移動して談笑するなど思いのままに過ごせる居場所ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者一人ひとりが使い慣れた家具や寝具を持ち込み、家に居た時と同じような雰囲気の中で生活ができています。写真やカレンダー、ご自分の作品など 希望を聞きながら一緒に飾り付け、居心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力・身体機能を把握し、居室でもリビングでも安全を確保できるように個別の支援をしている。夜間のみポータブルトイレや転倒防止のためのセンサーや鈴を使用している方もいる。(家族の了承を得ている)		